

口頭発表の記録について

<口頭発表の録音・録画・写真撮影について>

自己学習に使用する場合であっても、録音・録画・写真撮影することはできません。自校の記録等として参加者が録音・録画・写真撮影を希望する場合は、司会に申し出てください。

口頭発表

2月9日(金) 9:30~10:45 A会場 1階 大研修室

<提案のポイント>

③ 9:30~10:00

中学校 教科指導 授業改善
[次世代型教育推進センター「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト事業」実践フィールド校]

主体的・対話的で深い学びにつながる校内研究
～育てたい資質・能力を踏まえたチームによる授業づくり～

由利本荘市立西目中学校 教諭 田口 牧

平成27年度から次世代型教育推進センターの実践フィールド校として、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための、授業づくりや校内研修の進め方等の研究を進めてきた。特に「本校で育てたい資質・能力」を設定し、これを柱として教科横断的に生徒の育成に努めてきた。また、教科の壁を超えた研修会を通して学んだ内容を日常的に実践し、授業改善につながるようにした。取組の実際と生徒や教師の変容等を述べる。

④ 10:15~10:45

小学校 教科指導 授業改善
[次世代型教育推進センター「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト事業」実践フィールド校]

重点とする資質・能力を育むカリキュラム・デザインを生かした主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
～深い学びを自覚する子どもの姿を求めて～

由利本荘市立西目小学校 教諭 田口 睦子

主体的・対話的で深い学びを通して子どもたちに育みたい力は、資質・能力である。「教科の特性を踏まえた資質・能力」と「教科を横断する資質・能力」とはどのように結び付くのか問い続けている。重点とする資質・能力を中心にカリキュラム・デザインを作成・修正し、授業改善に取り組んできた。全職員で「子どもの姿をどう見取るか」という子どもを見る目を鍛えてきた。これは子どもがどう学んでいるかに軸足を置いた授業改善の取組である。

□頭発表

2月9日（金）9:30～10:45 B会場 1階 小研修室

<提案のポイント>

③ 9:30～10:00

特別支援学校 学校経営
[秋田大学教職大学院研修]

重度・重複障害児童生徒が在籍する学校安全と危機管理について

県立秋田きらり支援学校 教諭 佐藤 孝成

重度・重複障害児童生徒にとって安心・安全な学校づくりを目指すため、リスク・マネジメントの観点から学校の安全管理、教育（教室）環境、教員個々の危機管理意識など、学校の危機管理体制と事故やケガにつながるヒヤリ・ハットの原因を校舍施設設備の視点から課題を整理し、教員一人一人の危機意識向上を図るための安全点検および安全計画の在り方について報告する。

④ 10:15～10:45

高等学校 学校経営
[秋田大学教職大学院研修]

学校組織マネジメントによる現任校の分析と提言
～これからの学校に求められる組織力の構築～

県立秋田明德館高等学校 教頭 浅野 博之

学校組織マネジメントの観点より、機能的な学校運営を行うためには、組織力の向上が重要である。そのためには、一人ひとりの教員の資質能力の向上を図るため、校内研修が重要となる。今年度、本校における通級や授業改善に向けた校内研修の取り組み状況を提示するとともに、県内教頭・副校長へのアンケート結果も踏まえた校内研修内容の在り方を提案する。また、全国教頭・副校長会の調査から、教頭・副校長の職務の現状について一考する。

□頭発表

2月9日（金）9:30～10:45 C会場 1階 中研修室

<提案のポイント>

③ 9:30～10:00

小学校 教科指導 授業改善
[文部科学省委託「課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業」における「教科等の本質的な学びを踏まえたアクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための実践研究」]

「教科する」授業を通して新たな価値を創造する力を育むアクティブ・ラーニング

秋田大学教育文化学部附属小学校
教諭 菅野 宣衛

①「自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程」を通して教科特有の資質・能力を高める学習・指導方法の在り方を示す
②「対話」を通して「新たな価値を創造する力」を育むために、重視すべき学習過程や指導方法を整理し、その在り方を示す
という2点の重点を設定し取り組んだ2年間の実践研究である。教科特有の「見方・考え方」を働かせた学習活動、「対話」のもつ学習効果を活かした指導方法が有効であるという知見が得られた。

④ 10:15～10:45

高等学校 教育課程
[高校教育課指定 平成29年度「探究活動等実践モデル校事業」]

本校におけるカリキュラム・マネジメントの研究について
～研究指定（1年目）の中間報告～

県立大館桂桜高等学校 教諭 内川 繁

本校は高校教育課より平成29年度から2年間、カリキュラム・マネジメントの研究について指定を受けた。1年目は「論点整理」に示された「カリキュラム・マネジメント」の三つの側面について研究する方向性を確認して四つの班（研修班、教科班、評価班、連携班）を組織し、本校の現状と課題を踏まえてそれぞれの側面について検討している。今後は育成したい資質・能力を明確にし、学校として向かっていく方向性を示していく。

□頭発表

2月9日(金) 9:30~10:45 D会場 1階 美術研修室

<提案のポイント>

③ 9:30~10:00

高等学校 特別支援教育

高等学校における特別支援教育校内支援体制の充実を目指して
～生徒の声とオン・ザ・フライ・ミーティングを大事にして～

県立角館高等学校定時制課程
教育専門監 大沢 貴子
臨時講師 佐藤 綾子

特別支援学校から入学した知的障害の生徒への戸惑いが見られた4月の職員室。学校全体で組織化して指導にあたる必要があると考え、校内支援体制を整備し、定期的に全職員で理解し合う機会を設定した。本発表は、対象生徒の「声を聞くこと」を最優先し、その声に形式張らずに気軽に職員が悩みや考えを話し合い、共有できる場（オン・ザ・フライ・ミーティング）を整えたことで、生徒の変容と職員の意識がどう変化していったかをまとめた。

④ 10:15~10:45

特別支援学校 特別支援教育 授業改善

肢体不自由・病弱教育における児童生徒の主体性を育む授業づくり
～全校研究の取組～

県立秋田きらり支援学校 教諭 菊地 真理

本校は開校からICFの理念とキャリア教育の視点による授業づくりを重ねている。これまでの授業実践により培った、分かった、できたという成就感に加え、自立と社会参加に必要な力として主体性を育てていくことに重点を置いている。これまでの研究で課題として挙げられた「キャリア教育の視点」と「自立活動の視点」を取り入れた質の高い授業づくりを目指す必要があると考え、取り組んだ3年間の全校研究について報告する。

□頭発表

2月9日(金) 9:30~10:45 E会場 2階 音楽研修室

<提案のポイント>

③ 9:30~10:00

特別支援学校 特別支援教育 授業改善 [文部科学省委託特別支援教育に関する実践研究充実事業]

「分かる、できる、振り返る」授業づくり

県立大曲支援学校 教諭 加藤 有美子

次期学習指導要領の柱となる「地域に開かれた教育課程」、
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、効果的な地域資源活用の方策の検討、授業実践を通じた教育課程改善の仕組みづくりを行った。生活単元学習を中心に「授業づくりの視点」を活用し、児童生徒が何のために何を学ぶか「分かる、考える場面があり、主体的な行動が「できる」、何を学んだか、どんな力がついたか「振り返る」授業づくりを目指した。

④ 10:15~10:45

特別支援学校 特別支援教育 授業改善 [文部科学省委託特別支援教育に関する実践研究充実事業]

児童生徒の「学び」と「学んだことの活用」を生み出す授業づくり
～「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて～

県立比内支援学校 教諭 進藤 拓歩

本校では、児童生徒の自立と社会参加を目指し、地域に展開する教育課程を編成している。今年度は「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業づくりと学習評価に力を入れ、授業の質の向上を目指した。後者については「観点別学習状況の評価」を取り入れ、抽出児の実態を3観点から整理したり、授業や単元の内外におけるエピソードを収集・分析したりした。本発表では、実践から確認した児童生徒の変容と研究の成果等について述べる。

□頭発表

2月9日(金) 9:30~10:45 F会場 2階 授業研修室

<提案のポイント>

③ 9:30~10:00

高等学校 英語
[国際教養大学専門職大学院教員研修派遣]

語彙学習における目標の提示と振り返りの効果

県立花輪高等学校 教諭 伊藤 孝紘

全国学力・学習状況調査の結果から、秋田県の小中学校では教師が授業ごとのめあてを児童・生徒に提示し、授業の最後に振り返りの時間を与えている割合が全国と比べて高いことが分かり、一つのモデルとして定着している。本研究はこのモデルが高等学校においても生徒の学習に効果があるかを、語彙学習を例に調査したものである。単語テストとアンケートの結果をもとに、どのように授業に取り入れていくかを議論する。

④ 10:15~10:45

高等学校 英語

How to Make English Education in Akita Prefecture Better

~ Is successful cooperation among high/junior-high teachers for better English education possible? ~

県立大曲高等学校 教諭 近江 豊

本校1年生を中心とした英語力の分析を通じて、中学校・高校の英語教員間の望ましい協力の在り方を探る。また、本校の1年部教員2名が実践している中学校英語の再復習プロジェクトについて報告する。 Constructive English discussion will be attempted if we have at least one ALT with us. Otherwise, Japanese will be spoken.

□頭発表

2月9日(金) 9:30~10:45 G会場 2階 中研修室

<提案のポイント>

③ 9:30~10:00

小学校 外国語活動
[拠点校・協力校英語授業改善プログラム]

外国語を用いて伝え合う楽しさを実感させる指導の工夫
~より能動的なコミュニケーションに向かって~

湯沢市立湯沢東小学校 教諭 松野 誠子
教諭 奈良 進矢

本校では、英語を使ったコミュニケーションの「楽しさ」を実感できるような授業づくりを目指し、研修・実践を重ねている。1学期は授業の基本形「湯沢東小スタンダード(外国語活動編)」やクラスルームイングリッシュのCD作成からスタートし、授業の土台づくりに取り組んだ。その後、既習の英語表現を使った「プラス1」を入れたやり取りや、言語活動の工夫等により「楽しさ」を目指した。授業の映像や「湯沢東小版スピードラーニング」も交えながら紹介する。

④ 10:15~10:45

中学校 英語
[拠点校・協力校英語授業改善プログラム]

豊かな表現力を育むための指導の工夫
~即興でやりとりができる生徒の育成を目指して~

湯沢市立湯沢北中学校 教諭 佐々木 誠
教育専門監 佐藤江梨子

本校には常駐しているALTがいることから、英語でのコミュニケーション活動に意欲的に取り組んでいる生徒が多い。しかしその一方で自分の考えや気持ちを伝えるための語彙力や基本的な表現を活用する力が不足しており、コミュニケーションが一問一答で終わっている様子が見られる。そこで単元の終わりに、即興でやり取りする活動を意識して設定することで、英語でやり取りする必然性を意識し、活動に向かう積極性がより高まると考え、生徒の身近なことをテーマにしたディベートやディスカッション活動を設定し実践した。

□頭発表

2月9日(金) 9:30~10:45 H会場 2階 生活科教材製作室

<提案のポイント>

③ 9:30~10:00

特別支援学校 特別支援教育 授業改善
[平成29年度秋田県立ゆり支援学校公開研究協議会]

児童生徒一人一人の人と関わる力を高めるために
～気持ちや考えを伝え合う姿を目指した授業づくり～

県立ゆり支援学校 教諭 柏谷 明宏

平成27年度より3年計画で本研究を進めてきた。「伝える力」「受けとめる力」「伝え合う力」の各視点から児童生徒一人一人の目指す姿を基に、単元構成検討を行い、授業実践及び目指す姿の評価・改善を積み重ねてきた。その際、授業改善プロジェクトチームや小中学校、高等学校の教諭による共同研究を活用した。本発表では、授業づくりの成果や児童生徒の変容、本研究から導き出された本校における「人と関わる力」について発表する。

④ 10:15~10:45

特別支援学校 算数

児童の教育的ニーズを踏まえた教科指導
～小学部算数科の実践を通して～

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校
教諭 齋藤 明

個別の教育支援計画は、関係者との連携について本人(保護者)と教師との十分な協議を通して作成するものである。本校では、その活用に当たっては本人が当事者意識をもつことが特に重要であると考え、名称を「私の応援計画」としている。これを作成する過程で、小学部では「思いいっぱいシート」を使って児童の願いを把握している。発表では、このシートから導き出した教育的ニーズを基に指導内容を検討した算数科の授業実践を報告する。

□頭発表

2月9日(金) 9:30~10:45 I会場 3階 小研修室

<提案のポイント>

③ 9:30~10:00

小・中学校 ふるさと・キャリア教育

9年間を通じた「未来の創り手」の育成
～つながり、かかわりをキーワードにした「こさかの学び」～

小坂町立小坂小・中学校 教諭 阿部千鶴子

今年度、取り組んでいる「小坂町アクションプロジェクト」。ねらいは、小中9年間を通じてふるさと小坂の将来を担う「未来の創り手」を系統的に育むこと。小学校の「知る」「発信」を受けて、中学校で「町づくりへの参画」「町の在り方の提言」を行うものであり、実践のキーワードは「つながり、かかわり」。町のひと・もの・ことと双方向に関わり合いながら、コミュニケーション能力や自己有用感を高める学習は、まさにここにしかない「こさかの学び」である。

④ 10:15~10:45

小・中学校 小・中連携

共に学び合い、高め合う児童生徒の育成を
目指す小・中連携教育の在り方

湯沢市立雄勝中学校 教諭 佐藤 善樹
湯沢市立雄勝小学校 教諭 柴田三貴子

3年前に、雄勝地域の小学校が統合し、小・中一体型の校舎となり、新たな小・中連携がスタートした。その環境の中で生まれた児童と生徒の交流、教職員同士の交流を土台として、子どもたちに付けたい力を明らかにしながら、様々な連携教育に取り組んできた。授業においては、「主体的な学び」と「表現力の育成」を共通実践事項として実践を積み重ねた。アンケート結果にもその成果が表れている。

□頭発表

2月9日(金) 9:30～10:45 J会場 3階 中研修室(2)

<提案のポイント>

③ 9:30～10:00

小学校 道徳
[第30回東北地区小学校道徳教育研究協議大会 青森大会]

主体的に学び合い自己の生き方を考える子どもの育成
～問題解決的な学習における学び合いを通して(道徳)～

北秋田市立鷹巣小学校 教諭 佐々木美幸
教諭 淡路 雅子

道徳の時間の教科化にあたり、「考え議論する」授業への転換を目指し、問題解決的な学習における学び合いを充実させることが、自分との関わりで考える主体的な学びにつながり、子どもが自分の学びを実感し、自己の生き方を考え、夢や目標をもって主体的に生きていく力が付くのではないかと考えた。資料から子どもたちが感じた問題を糸口に話し合い、道徳的な価値における問題を解決していく問題解決的な学習を中心に授業実践を行った。

④ 10:15～10:45

中学校 道徳
[日教弘秋田支部研究論文入賞]

自己肯定感と所属感を高める「語り合う道徳授業」の実践
～広げる・深める発問と、目的に応じた学習形態を中心に据えて～

秋田市立将軍野中学校 教諭 伊藤 香

人間の生き方に関する内容について、やわらかくあたたかい雰囲気でも語り合うことが、子どもたちの自己肯定感や所属感を高めていくのではないかと考え「語り合う道徳授業」を継続してきた。発表会では「語り合う道徳授業」の実践例を紹介すると共に、年間を通して学級集団がどのように変容していったか紹介する。教科化直前の今、中学校道徳授業をどのような視点で質的改善していけばよいか、参加者と共に考えるひとときにしたい。

□頭発表

2月9日(金) 9:30～10:45 K会場 3階 中研修室(1)

<提案のポイント>

③ 9:30～10:00

教育委員会 情報活用

統計的手法の教育利用
～客観的評価の精度を高めるために～

大仙市教育委員会教育指導部教育指導課
教育アドバイザー 青谷 晃吉

昨今、教育成果を客観的に把握するために数値指標を目標に設定するなど可能な限り数値化しようとする試みがなされてきている。しかし、現状では実践方法や努力量を述べ、そこに主観的な考察を添えることで評価を終えている例も少なくない。今回は、学校規模に関わらず授業における学習評価や学力分析等で、数値目標との比較による評価に加えることで客観性を一層高める簡便で有用性の高いと思われる統計的方法について紹介する。

④ 10:15～10:45

幼・保・認定こども園等 就学前教育

みんながHAPPYな子ども園をめざして
～配慮が必要な子を支える個別計画～

能代市立二ツ井子ども園 主任保育士 山谷美千保
能代市第一保育所 主任保育士 山下 悦子

園全体で発達について気になる子どもに寄り添った保育を実現するために、職員が共通理解を図り、保護者と共に関わっていくことが必要であると考え、外部講師による研修を実施し、障害への理解を深めた。

さらに、個別の支援計画を作成し、一人一人の個性に応じた支援の充実を図った。個別の指導計画で具体的な目標を設定することで、子どもの理解が深まった。園内研修を重ねることで、職員の保育観が大きく変化した。これらの取組により支援と保育の幅が広がり、その他の子どもに対してもその手立ては有効に働いた。